

第6回 新潟市都市計画マスタープラン策定検討委員会 議事概要

日 時： 令和3年8月30日（月） 午後2時00分～4時15分

場 所： 古町ルフル12階 集会室2

出席者： 新潟市都市計画マスタープラン策定検討委員会

佐藤由香子委員、佐野可寸志委員、鈴木孝男委員、

田村圭子委員、樋口秀委員長、柳沢厚委員（オンライン）

オブザーバー

上村康司（新潟県土木部都市局都市政策課長）

欠席者： 小池由佳委員、富山栄子委員

1 開会

2 挨拶

3 議事（意見交換）

（1）第1～2章（素案）

（事務局） 資料説明

（樋口委員長） 今ほどの冒頭の部分、第1章と2章についてご説明がありました。この部分について、皆様、いかがでしょうか。

（田村委員） 特に第2章ですが、資料1の第1章にも関わるかと思いますが、どういう意味でこれが配置されているのかがはっきりしません。例えば、防災分野で言えば、洪水、津波災害の発生想定があるという記載がある。一方で、自然災害においても他には、土砂災害などもあるので、どうしてこれを選んで、特にこの2つを都市計画については考えなければいけないといった理由づけがないと感じる。いきなり27ページで短時間強雨だけ記述があるのが理解できない。もし、気候変動ということをおっしゃりたいのであれば、ここではない。全体のタイトルと整合しない。新潟市を取り巻く環境として気候変動があるが、その中身は新潟市の自然社会環境という中身なので。その辺の立て付けと、それからどうしてこれを選んで議論しているかを、第1章に書くとか、どこに関係があると書かない限り、ずっと聞かされていてもよく分からないというのが全体の印象です。以上です。

（樋口委員長） 若干フォローすると、従前の都市マスに書かれていたものを、データを更新しましたというところかもしれません。たくさんある中から、本都市マスの中で該当しそうなものを選んでいくという考え方もあろうかと思います。

何か、冒頭に説明があった方がいいかもしれません。

(事務局) 確かにいろんなデータを付けていて、その意味付けがあった方がというのは、ご指摘のとおりだと思います。正直、従前からのものもありますし、私どもなりの意図は持っているのですが、これだけ見ても分からないというところもあるかもしれません。少し、載せ方の工夫をしたい。例えば、これが載っているのは、どこの章につながっているみたいな説明とか。あまり頭でっかちにならないようにしたいとは思いますが、この辺のデータがどこにどうつながっているか説明を少し添えるなどの工夫は引き続き考えていきます。そうすると、載っていないでもいいものが、もしかすると出てくるのかもしれません。その辺の整理をしてみたいと思います。

(田村委員) 防災のところ、2、3行とか、説明文を書いて、その根拠となるグラフがあるというのはどうでしょう。また、都市計画では当たり前なのかもしれないですけど、「新潟にも都心があったのか（都心の定義は？）」、「D I Dって何なのか」は説明が無ければ、なかなか面食らいます。市民向けにもう少し丁寧にする必要があると思います。

(樋口委員長) そこもご配慮いただければと思います。

(佐野委員) 感想になりますが、政令指定都市といろいろ比べていますよね。都会の大阪、埼玉とかと比べるのではなくて、浜松とか静岡とかはいいと思います。あとは日本海側で特に新潟と比べるべきは金沢とか、政令指定都市以外にもあると思うので、政令市にこだわるというよりは、新潟とほぼ似たようなクラスの地方都市等もあった方が、より新潟らしさをアピールできると思いました。

(樋口委員長) 具体的には、この28ページあたり。こちらもぜひ、確認していただければと思います。そのほか、いかがでしょうか。

(上村氏) 「用語の定義」で、細かくて申し訳ないのですけれども。都心周辺部で、ここでは美咲町・新光町周辺となっています。中身では、これが逆で、新光町・美咲町周辺となっているかと思っておりますので、整合をとった方がよろしいかと思いました。それと、機能別拠点とあるのですけれども、ここは何か説明が、この後入るということですのでよろしいでしょうか。現在空欄です。

(事務局) 申し訳ございません。機能別拠点については、抜けがございました。定義の方は後ほど追加させていただきたいと思います。

(田村委員) 18ページの「柳都大橋、みなとトンネルが開通」したら「萬代橋の自動車交通量が年々減少している」述べていますが、柳都大橋、みなとトンネルが悪いと見えるのですが、言いたいことは交通の分散が起こって、渋滞が

解消された、ということかと思います。市民の方は、より一層、どう読んでいいのかわからないのではないかと思います。

(事務局) 工夫します。やはり、どこにどうつながっているのかを付けてくると、そこに付随したコメントができることになるとと思います。萬代橋について、良くも悪くも交通量が下がって、いろんなことができる環境が整ってきているということが言いたいだけなのです。みなとトンネルができたおかげで分散しているというところなのですが、言葉足らずでした。第1回、第2回、現況を整理したときはこれでよかったのですが、ここに統合させた段階で、かえって分かりにくくなってしまっているところがあるかもしれません。

(樋口委員長) ほかに分散しているということだったのですね。ほかにいかがでしょうか。

(佐藤委員) 12 ページの人口のところ。ここで市全体の人口は 2015 年をピークに減少していると。その代わりに、世帯数は 2025 年（令和 7 年）まで増加すると推計されていると書かれています。人口は減少しているのだけれども、世帯数は増加しているという、一見矛盾しているように感じると思う。

実は昨日、建築士の日のイベントで、100 名ほどのリモートでの講演があって、そこで新たな発見がありました。一頃、夫婦と子どもが 1 人、2 人ということで、4 名から 5 名の核家族が多かった。その前は、本当に大家族で、8 名、9 名だった。結構、核家族というのが今も多いのかなと思っていたら、実は、最近はその中でも 2 人暮らしと 1 人暮らしの世帯が多くなってきたという報告がありました。それで、この 12 ページを読ませてもらったときに、人口は減少しているけれども、2 人暮らし、1 人暮らしの世帯数がだんだん増えていって、令和 7 年まで増加しているのかなと思ったのです。たぶんこれも、「人が減っているのに世帯数が増えるの？」と感じる人が多いと思うので、その位置づけとして、今の 2 人暮らし、1 人暮らしが増えているということを書き加えた方がいいと思いました。

(樋口委員長) 重要なご指摘かと思います。まちづくりに結構かかわってくると思う。

(事務局) いろんなデータはあるのですが、明らかになっている部分となっていない部分もあって、予測の範囲みたいなものもあったりする。ご指摘のとおり、言葉が不足している部分の説明は引き続きやっていきます。

(樋口委員長) この世帯数の推移のところの現況の部分だけでも、世帯構成人員数別に区分すると、今の佐藤委員の意見はすぐ見て分かると思いますので、ご検討ください。

(柳沢委員) 30 ページのところですが、インフラの維持管理、更新費用というものがありますが、非常に重要なデータだと思います。この図と表の数字の関係が

中々つかめないのですが、図では 50 年平均費用 245 億円となっていて、表では道路から下水まで全部足すと 300 億円を超えます。これはどういう関係になっているのでしょうか。

(事務局) 今のご指摘について、上のグラフと下の表は別のものを示しております。上のグラフは公共施設の将来費用予測ということで、例えば学校や庁舎や文化施設などの建築物に関する将来費用予測です。一方、下については、インフラ資産ということで、種別に記載のとおり、道路や橋梁、公園といった、土木部門のインフラ施設の将来費用予測になっています。同じページになって分かりにくくなっていますが、上は公共施設、下は道路などの公共インフラを示したものとなっています。

(柳沢委員) 両方足したものが、要するに将来の支出額になるわけですね。分かりました。ありがとうございました。

(樋口委員長) 年間 500 億円を超えるということですね。今のご質問は重要ですので、市民の皆さんが読まれたときも分かるように、ご説明いただければと思います。

(鈴木委員) 感想が中心になってしまいますけれども、数字で衝撃なのは、公共施設の実態です。公共施設の 1 人市民あたりの保有面積が多いのをどう見ていくかというところで、大きな舵取りが必要なのかどうか。われわれのこれまでの議論が弱かったかなと思っています。その辺、将来、少子・人口減少化での財源の確保ということでは、かなり厳しい数字が載っているのかなと印象を持ちました。京都市の財政難の状況などを見ている、他人事ではないのかなというところでは、これは市民一人ひとりの課題でもありますけど、もう少し方向性を示しても良いと感じました。24 ページを見ると、農家は減っていて大規模化している可能性がありまして、その生産者の中には結構若い方が、おそらく活躍している可能性があって、新しい担い手が入っています。新潟市のニューフードバレーの取り組みなどでも、かなり全国でも先駆けて力を入れて頑張っているところだと思います。なかなか稲作だけでは難しい状況が見込まれるということです。この辺も、後ろの施策とどのような関連があるかを、文章でももう少し表現していただきたいと思っています。ここで、今回の都市計画のマスタープランでは「食」が非常に大事になっていますので、この辺の切り口につながるようなデータの分析の仕方をお願いできればと思います。

最後ですけど、34 ページのアンケートについて、この市政世論調査を見ますと、やはり公共交通、モビリティが大事で非常に重視する必要があるのではないかと思います。公共交通の交通分担率は自転車が弱く、地方都市と比べると、自動車への依存が強いというところをどうやって方向性を

変えていくか、ここをもっと強調しなければいけないのかなというところは、後段の議論につながるかもしれませんが、感想として思いました。

(樋口委員長) いくつか重要なご指摘をいただいております。お伝えするだけでよろしいですか。

(鈴木委員) そうですね。

(樋口委員長) 農業の部分については、後から「都市の姿」のところでも、田園と調和するという部分がありましたので、鈴木委員のお話を、もう少しここを丁寧に書かれてもいいのかもしれない。よろしくお願いします。

(佐野委員) 19ページの公共交通のところですけど、公共交通の下に(1)広域交通網の状況ということで、空港もありますけど、高速道路とか、国道とか、公共交通というよりは交通ネットワークの話なので、公共交通の下にあるのは違和感がある。新潟は、これから公共交通は大事なのですけれども、今ある道路網の評価で比較的しっかりしたものがあって、新潟バイパスは全国でも2番で、1番に限りなく近い交通量が走っているとか。その辺も含めて整理して記述していただけるといいと思います。

(樋口委員長) ありがとうございます。今の先生のお話からすると、(4)公共交通というのは、(2)から公共交通で、(4)は違うタイプにされた方がいいということですかね。そこは、もう少しふくらませるかたちにさせていただけるといいと思います。第1章、2章のデータが新しくなりましたし、いろんな文字が増えてきましたので、皆さんから新たな視点でご意見が出ました。ご検討をどうぞよろしくお願いします。

(2) 第3~4章(素案)

(事務局) 資料説明

(樋口委員長) 第3章と4章について、皆さんと一緒に議論したいと思います。

皆様からご意見をいただくのですが、冒頭で私からの提案をさせていただきます。この方針1から方針5、方針6、7、8は地域づくりなので、上の1から5が都市づくりの方針になります。これは、ほぼ、前回の都市マスの方針の並び順が踏襲されるようなかたちになっているのですけれども、冒頭で丸山課長からもお話がありましたし、先ほどもご説明の中にあつたように、今、新潟市は内閣府から都市再生緊急整備地域の指定を受けて、新潟駅が高架化するにあたり、この拠点を何とかしようとして非常に力を入れている中で、それを支えるべき都市計画の都市マスが、どういう方向性を示すかは非常に重要なことだと思っております。先ほど鈴木委員がおっしゃっ

たように市民アンケートで、公共交通を市民の方がすごく求めておられるということも出ております。そうしますと、ここに書いてある方針3について、事務局に確認したとき、方針1～5は優先順位があるのではなくて、あくまでもこれはフラットだという話だったので、今回の都市マスでは、とりあえずこの10年後の2031年を目指して動かすという意味でいうと、この方針3を方針1に上げる。その後、私見ですけれども、昨今非常に安全・安心が求められていますので、方針3、方針1、方針5、その後に方針4、方針2とつないでいくと、これから取り組む新潟市のまちづくりに、この都市マスが後ろ盾になるような方向性を出せるのではないかと考えている次第です。並び順は、もしかすると委員の皆様、ご意見があるかもしれません。これは、私の提案ですけれども、その賛否も含めて皆さんからご意見をいただけたらうれしいです。いかがでしょうか。

(田村委員) 樋口委員がおっしゃった並び順ですが、世間の関心の高さに比して打ち出していくというのは反対ないですし、今の並び順でも違和感はないです。ただ、こういう感じで並べていますというのをどこかに入れると良いと思います。前はこうだったけど、何でこうしたかを聞かれたときに答えられないと困るので、それは必要だと思いました。とりあえず、その点については賛成です。

(佐野委員) 新潟駅を中心に、にいがた2kmとかやろうということだと思うのですが、それに関連するのは目標3-1ですか。それなら目標3-1をもう少し強化してもいいのかなという気がします。

(事務局) 今のにいがた2kmとか、そういう都心については方針2の中の目標2-3というかたちで「稼げる都心をつくる」という中に入れてあります。これは国内外から見たとき新潟の顔となる都心というところで、方針2に入れているということです。

(樋口委員長) にいがた2kmの位置づけをもう少し考えていただけたらいいかもしれません。国内外とつながるために、にいがた2kmをやるのか、新潟市の中の魅力を高めるためにやるのか。方針2を一番最後にもってくと立て付けが悪くなりますね。撤回の方がいいのかもしれませんが、皆様から忌憚のないご意見をいただけたらと思います。いかがでしょうか。内容に含めても結構です。順番は私が提案してしまいましたので。

(鈴木委員) 方針3を1番にするというお話だと、ますます道路が強調されるので、この並び替えを整理されるのであれば、目標レベルでの再編も必要になってくるのではないかと。あまり車を強調するよりは、それ以外の目標を強調する

ような方向性や、環境面でのアプローチというところを強調された方がいいのかなと感じます。ですので、方針1の「環境に配慮した都市づくり」というところも非常に重要だと思いますので。そこと交通はかなり一体的だと思います。新潟駅周辺というところで、もっと強調するとなると、都心軸や、まちなかというキーワードです。若干、整理が必要だなと思いますけど、その作業は可能な範囲で、お願いできればと思います。

(樋口委員長) 一つ一つのパーツは一生懸命ご検討されていますので、もう少し皆様からご意見をいただきましょう。お願いします。

(田村委員) 防災の世界でいうと、1項目はだいたい5～7で構成するのがいいと言われていて、そういう意味ではこれは細かいですね。4つつつ、3つつつぐらいで構成しているので。先ほどのご趣旨に沿うとすれば、例えば、方針3と方針2、目標3-1、3-2、3-3、3-4というのと、目標2-1と2-2を一緒にして、いわゆるネットワークでつながる都市を核にすると「公民が連携して稼げる都心」というのは、実は方針4の「魅力ある産業」に内包されているのではないのでしょうか。拠点は、目標3-1、3-2、3-3、3-4と2-1と2-2で拠点シリーズ。目標2-3と産業、実は方針1は農業系の産業だとすると、方針4はいわゆる産業系なので、1つでいいのかなと思いました。拠点系、産業系、そして、安全安心の順が収まりがよいかと思います。

(柳沢委員) あまりこだわるつもりはありませんが、順番に関しては、方針1から5の中身を見ると、最終目的の方針と、それを支えるための方針と、いわば上部構造、下部構造になっている。その目で見ると、方針1と方針4が上部構造ではないか。残りは、それを支えるためには、こういうことがちゃんとできていなければいけないという構造になっているような気がするので、そういう分け方もありはしないかと思います。参考意見です。

(樋口委員長) 国外に向けたというか、もっと広域な部分と、そうではない部分という区分けも、前の委員会のときにご提案いただきました。ここでも素晴らしいご提案をいただいております。最終判断は事務局の皆さんがしてくださると思っていますので、ここは皆様がお気づきの点をどんどんご発言いただければと思います。もう少し項目の中身の文言や、書かれた内容についてのご意見でも構いません。いかがでしょうか。

(田村委員) すごく気になっているのは42ページの絵です。41ページの絵と、42ページの上下の絵、最後の横長の絵と、なんかたくさんあるのですが、どれを

見てもイメージがしづらい。新潟市民以外の人に、この 43 ページを見せると混乱するのは、この名前と市の拠点が合わないので、意味がよく分からない。区がないような感じにも見えてしまうのですが、42 ページの下の絵を見ていただくと、地域拠点の下に田園拠点と生活拠点があって、それで区を構成していて、それが都心という、中央区のイメージだと思います。その下に区分がぶら下がっているという絵になっていて、農業が多い、田園が大きいバージョン、いわゆる生活拠点が大きいバージョンという、大きさの差はあるのですが、そういう絵にならなければいけないと思うのですが、42 ページは区が 1 つしかないように見えるので要らないのではないかと。

そういった内容を一番、概念的に表しているのは、上の模式図です。模式図にするなら模式図にする。実際に表せるのであれば、うまくいっているところとっていないところをあらわにして図にしないと整合性はとれないのではないかと。都心は力を入れるのであれば、アップの図を横出しにして入れてもいいのではないかと。これはデザイナーさんに入ってもらわないと、このようなデザインは無理なのではないでしょうか。また、これはわりと新聞等にも使われるのかなと思うので、力を入れる必要があると思いました。

(樋口委員長) 新しく出てきたのが、この 42、43 ページの絵です。41 ページの絵は従前からお示しいただいていたように思います。42、43 ページの絵について、皆様からご意見をもっといただきましょうか。

(佐藤委員) 今の意見とほぼ同じなのですが、41 ページの、せっきやく、北区、中央区、南区となって、これはだいたい誰が見ても分かりやすいと思うのですが。今の 43 ページの、せっきやくの総括図のところも、何となく、こちらとこちら、田園地が取り残されているよ、みたいな、そんな雰囲気があったりして。このところに、確かに西蒲区とか、西区、中央区と載っているのですが、良く見ないと区分けがよく分からないので。この 41 ページと 43 ページが、もう少し分かりやすく合体したものをつくられた方が、誰にでも分かりやすいと思いました。

(樋口委員長) そのほか、いかがでしょうか。田村委員、佐藤委員のご発言に対して、事務局からこういう考えなのだ、というお話はありますか。

(事務局) 42 ページの真ん中の部分に関しては、あくまでこういうものをイメージしていますよと、できるだけそれ自体にすべての意味を持たせないように、拠点の数をあまり増やさない配慮をしています。もともと現行の都市マスにあった、ひし形の核のような図がよく分からないというところを端に発した一連の作業だと承知しています。41、42、43 ページが連続したページ

に並んできたときに、似たようなというか、同じことを説明しようとしている構成の部分が3つ並んでいて、なんとなく三者三様になってしまっているところが、かえって混乱を与えてしまっているのであれば、整理をしなければいけないのだと感じました。

(樋口委員長) 特に41ページの図と43ページの図が、ほとんど同じようなことを言っているのに2個あるというのが分かりにくいのかもかもしれませんね。42ページの下絵は、実は参考資料1と、たぶん、今後、都市マスを説明されるときに、これが一番外に出やすい資料なのではないかと思います。この42ページに、拠点の絵を入れていただいて、新潟市の都心を盛り上げていくぞという、地域拠点も生活拠点も大事にしながら田園集落も守っていくぞという、いいイメージ図ではないかと、私は拝見しました。これがあると、先ほどの地域づくりの方針のときに、都市再生緊急整備地域の話もあったのですけれども、方針3を上を上げて、拠点を大事にするぞというのを掲げていくのはどうだろうかというのが冒頭の意見だったのです。でも、委員の皆様から、中身を見るとそうでもないねという話もあり、ごもつともでしたので、そこは内部でもう少しご検討いただければと思います。この42ページの絵、皆さんはどうですか。42ページの上は表で下は図になっていますが、このような表現はいかがでしょう。

(柳沢委員) 率直に言って、ちょっとよく分からないという印象を受けました。41と43は、実質的に、同じ図だと思うのですが。ですから、43の方は実務的に、今後、何か許認可をやるときに区別されているか、いないかで、差を付けるとか、具体的な意図があるのであれば、このレベルの図が必要ですが、そういうことは考えていないとなると、41ページで足りるという感じがします。

(樋口委員長) 使い方のご意見もいただきました。使われようとされているかということに対するご意見ありますでしょうか。

(事務局) 場合によると、いわゆる新潟市の総合計画の土地利用構想という部分が、どうしても自治体の総合計画に反映しなければいけないとなっていますので、その兼ね合いもあり載せています。特に、これで補助事業が何とかということでは、あまり使われた記憶がないと思っています。そこは整理しながら、ほかの部署との兼ね合いもあるので検討していきたいと思っています。ただ、見やすさは、まだデザイナーさんが本当の意味で入っているような部分かどうかと言われると、いろんなご意見もあると思いますので、そこは引き続き検討させていただきます。3つ並ぶと、確かに「なんであるんだろう」と思ってしまうのは、おっしゃるとおりだと思います。

(田村委員) 先ほど、構成一覧の上から「拠点系と産業系と安全安心」の3つぐらいにまとめたらどうでしょうかと話をさせていただきました。1つめは、確かに生

活圏のことを言っているのです、上を都市機能とすると、方針6は生活、方針7は文化や人の気持ちです。方針8なのですが、目標8-1と8-2は確かに生活環境なので、どっちかという、方針6とくっつけて、「生活圏」にすればいいのではないかと。防犯まちづくりは、方針7に近い。文化みたいなことで、ソフトで守っていきましょうと書いてあると思う。

(事務局)

いわゆる身近な暮らしという部分で、ご自身が思ったときに、場所はどこにあるんだろうと探しやすいという部分のくだりと、いわゆる華々しいという変ですけど、わりと都市的なという部分を分けて書いているという作り方と思っています。構成の云々というのは、さまざまなご意見をいただく中で検討はできると思っていますが、どういう形が一番読みやすいかというの、いろいろあつたりするので、今決めるのは限界があるのかなと思っています。おっしゃるように、この10年はどういうことが重要視されているから、どこをどうした方が良いとかは、まさにそのとおりだと思います。記載する内容はこれだけありますので、そもそも、新しい項目が出てくるということではなくて、その構成でどう読みやすいかというのは、考えてみて、またご議論いただく、もしくはメール等でやり取りさせていただく機会があればと思っています。

(田村委員)

もう1つ。そうすると方針2と3が機能別拠点にかかっているのかなと思います。この田園集落については、明らかに方針1を指しているのですが、そうすると方針4と一緒にしたらどうですか。産業自体は、地域拠点の中なのか、都心のことを言っているのか、両方なのでしょう。安全安心は基盤なので、このさっきの絵の中にはないですというのは理解しました。生活拠点は分かりました。この生活拠点というのがあって、方針5は生活拠点、方針7は、地域拠点、田園拠点、生活拠点、全体の文化のかさ上げと連動しているのか。そうすると、この方針8はやはり生活拠点の中の、家の中の話。

(樋口委員長)

非常に重要なご提案、ありがとうございます。確かにそうなっていると見やすいですし、ご説明されるときも分かりやすいかもしれませんね。そのほか、いかがでしょうか。

ボールを投げたままで申し訳ありません。今、方針1から8まで、事務局から説明いただいて意見を言いました。それを踏まえて、皆様、参考資料3を見ていただけますか。先ほどご説明のあった「目指す都市の姿」とこれからの20年、もしくはこれから直近の10年を目指して、この都市マスは何を目指すべき姿としていくのか。キャッチコピーになるのですが、案が3つ出ております。どれがいいのかとか、これはこうした方がいいというご意見を皆様から1つずついただけたらと思います。

また私からという、いろいろありますから、委員の皆さまから、どなたからでも結構です。一人、必ず一回ずつご意見いただけたらと思います。

(柳沢委員) この中から選ぶわけではないというご説明でしたけど、これだけ詰めてきたので、この中のどれがより良いかという議論をしないと、なかなか収まらないと思って読んでいたのですが。まったく個人的な意見になりますが、日本語のこなれ具合というのも、こういうキャッチコピーの場合は大事なので、そうすると、平凡だけど案の3が日本語としてはこなれているという印象を私は持っています。そのときに、説明の中の括弧書きで「多様な」というのが多核を含んでいるから外したというのだけど、あえてそう言わずに多核連携は前もやっているし、継承する意味でも多核連携都市にしておいた方がいいのではないかという印象を受けました。以上です。

(樋口委員長) ありがとうございます。案3で、連携の前に「多核」を入れたらどうかということでもよろしかったですか。最初にボールを投げさせていただきました。続いていただければうれしく思います。いかがでしょうか。1票というのは案3にもう1票入ったということですね。

(田村委員) もう1票です。

(佐野委員) 私は、案3が一番こなれているかなと思いました。ただ、外とつながるみたいなのがあまりないと思ったのですが、キャッチフレーズはこれで、しっかり中でそういうものを主張してもらえば、このままでもいいのかなという気がします。

(樋口委員長) ありがとうございます。案3に3票入ってしまいました。私は案2の「湊と田園が織り成す」の「成す」は平仮名の「なす」にされて、多核連携型サステナブル都市というのは、どうでしょうか。漢字がいっぱいあるのはどうかと思いましたが。

(田村委員) それに対する意見として、湊と言いだめたのは私なのですが、これが一番好きなのですね。だけど、湊の話が計画に出てこないの、都市計画に湊は入っていないの、これは国の施設なのだと思います。

(鈴木委員) 湊の表現は、あった方がいいのかなと思います。先週、スローシティの認証を受けて食を活かしたまちづくりに取り組んでいる気仙沼市の方から、ヨーロッパの港町には3つの顔があって、朝は働く人、昼は観光客、夜は地元の子供たちとか観光客が集って賑わっていると教わりました。日本は縦割りで管轄が分けられていて、なかなか観光と生活と仕事が一体となっ

た湊町ができにくいという話があります。その3つの顔を、ぜひ、この信濃川周辺も含めて、取り戻していただきたいと感じたところです。湊というのが入った方が新潟らしいと思いました。それと環境です。僕も案3がいいかなと思って、連携都市より環境都市がいいのかなというところがあります。そこに湊がどう入るかがまたあれで、なかなか悩ましいところです。ぜひ湊も入れて推進していただいて、水辺というところを少し積極的に活かしていただく。生活と仕事と、人々の水辺が一体となり、新潟駅の再編も含めてにぎわいをつくってほしいと思います。

(樋口委員長) 湊の3つの顔は大事ですね。田園にもこの3つが関わるかもしれませんね。

(鈴木委員) 川湊のまちが、先ほどの区分でいくと地域拠点になっていると思いますので、かつての水を介した物流・交流のような環境を取り戻すということであれば、地域拠点にも湊という言葉が入ってもいいのかなと思いました。

(佐藤委員) キャッチコピーですよ。今、この1、2、3、どれも的を射ているというか、頭のいい大人が考えたキャッチコピーだなという感じがしまして。もし、これが誰でも分かりやすいような、子どもでも分かるみたいな、そんな言い方はないのかなと考えて。とてもシンプルなんですけど、前から水の都と、今は湊とあるんですが、でも緑も捨てがたい。そうすると、水と緑の都で、先回から継続ができる、持続可能なという言葉がよく出ていたと思うのですが、それを例えば「笑顔でつなぐ未来ある」、せっかく政令都市なので、「政令市新潟」となると、単純なんですけど、「水と緑の都 笑顔でつなぐ未来ある政令市新潟」みたいな、誰にでも新潟の魅力が伝わるような、そんなものを少し入れてもいいのかなと感じました。

(樋口委員長) 私たち、凝り固まっていたのかもしれませんが。若干、総合計画にもキャッチフレーズがございまして、それは都市計画に限らず、とにかく全部ひっくるめた計画です。総合計画のキャッチフレーズは確か第1章のところに出ていましたかね。キャッチフレーズは書かれていなかったですかね。

(事務局) 5ページに記載がございます。

(樋口委員長) 佐藤委員からお話があったキーワードも捨てがたい感じがありますね。凝り固まらずに、もう一回、委員の皆さんからたくさんいいお話が出ましたので、目指す都市の姿、キャッチコピーについての議論はここまでとさせていただきます。ありがとうございました。

(3) 第5～6章(素案)

(事務局) 資料説明

(樋口委員長) それでは、今ほどご説明頂いた第5章と6章について、皆様からご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。第5章は区づくりですので、非常に見やすくなったように思います。ですが、若干、色使いや表現も統一されたというお話だったのですが。

全体構想と合うような形にされるとすごくいいと思います。以前、鈴木先生が、このまんなか拠点はいいねというお話もあったのですが、このまんなか拠点はこっちに出てこなかったりするので、そのまま外に出てしまうのはよくないと思いますので。先ほどのご説明にあったように、区が一生懸命やられることがトータルとして新潟市がよくなるんだという意味でいうと、合わさっているような内容にされるといいと思います。

(鈴木委員) 区別構想ですが、ここにどういうものが出てくるかがすごく重要だと、今の説明を聞いて思いました。構想力を、区が持っているかどうか心配されますので、例えば、コンサルがつくようなことがあるのか、どれくらいの期間で、どういったかたちで検討が進められるのかというところは、具体的な方針として何かあるのでしょうか。

(事務局) 前回少しお話しさせていただいたとおり、この区別構想は、この会議と並行したかたちで、区が主体となって地元の方や関係者の方のご意見をいただきながらつくっていたので、それぞれの地域性は区が一番分かっています。第6章の前段のところ、区づくり都市計画プラン、いわゆる計画にまた計画をつくるみたいなことではなくて、本当に地域ごとに必要な部分について、もう少し踏み込んだ、あまり俯瞰した話ばかりではなくて、地域・足元にちゃんと根付いた計画の記載をしています。その部分について、やっていっていただくと考えていますが、予算的な裏付けまで今、達せられているかというところ、そこはなかなか難しいのですが、区役所も十分承知している状況です。

(鈴木委員) 例えば地域拠点となる中心商店街ににぎわいを取り戻そうというアクションプランは、この区づくり都市計画プランで初めて出てくるのですよね。

(事務局) いろんな計画の兼ね合いがあるのですが、区の全体の部分については、総合計画の横に、「区ビジョンまちづくり計画」というものがあって、そこに交通も産業も文化みたいなものも入ってくるというのが全体になっている。この都市マスも、総合計画の分野別計画の1つになりますが、そこで話として少しすり落ちてくるということになります。そこも含めて議論をさせていただきます。

(鈴木委員) 96 ページを見ますと、区ビジョン基本方針は、すでに区別の構想と横並びになっているのですか。さらにその下にアクションプランなり、個別方針というのが出てくるのですか。

(事務局) そうです。そういうイメージで見ただけだと。

(鈴木委員) そうすると、区づくり都市計画プランがとても大事で、あとは市独自でやられる先ほどの主要な施策ということですね。そこにどういったものが入ってくるかというあたりが、大事になってくるのかなという解釈でよかったですでしょうか。

(事務局) これから大事にしていきたい部分です、と。現行の都市マスでもあったのですが、正直、そこは踏み込んできていない部分でもありましたので、そこは今後、少し踏み込んでいきたいと思っています。先生がおっしゃるような裏付けまであると言われると、そこは乏しいような状態です。

(鈴木委員) 前日も申しましたように、この地域拠点なり生活拠点なり田園集落の具体的な姿が、この 10 年間でどう変えていくのかというところが今の区別の構想ではなかなか見えませんでした。そこら辺は、われわれがあまり目に見えないところで進んでいくのかなというところでした。

(樋口委員長) 集落が今後 10 年でどうなっていくのか。たぶん、集落も色がある気がしますので、それぞれの中でも違うところもあるのかなと。難しい部分ではありますが、いい環境を構築できるような手法をぜひご検討いただきたい。手段がないとおっしゃいましたが、手段を伴うようなかたちになればいいと思います。

(柳沢委員) 第 6 章はだいぶ直していただいて、分かりやすく整理されたと思います。なお一言申し上げます。3 つの制度は、いずれもそういう制度がすでに、法律なり補助制度なりで存在しているわけではなくて、すべて市が独自に定義をした制度なのです。ですから、市の方は分かって、すでに運用もされているというので、あまり抵抗感がないのかもしれませんが、初めて読むと、この制度がよく分からない人が多いのではないかと。2 番目、3 番目も、実はそういう制度はなくて、市の定義なわけです。でも、何となく 2 番目、3 番目は、私なんかは射程内に入っているの、あまり気にならないのですが。1 番目は、前も言いましたけど、よく分からない。例えば、こういうふうに定義を置いていただいたらどうかと思います。「市として既成市街地を対象とする再開発や、環境保存に関する都市計画の諸制度をここでは地区環境保全・再生まちづくり制度という」と、そのようにちゃんと定義をしてくれれば安心感があるのですが。同じように後ろの 2 つも、定義を入れた方がいいのではないかと。なくても、まだこちらは分かると思いますが。必要性、妥当性、確実性は、整理していただいて分かりやすくなったのですが、特に

必要性のところは、上位計画との整合性と書いてあって、それは必要性の1つの例ですよね。だから、上位計画との整合などの必要性、あるいは事業の必要性と書くかどうかは別ですけど、そのように必要性という言葉をちゃんと入れた方がいいと思います。以上です。

(樋口委員長) 非常に大事な定義の部分と判断・考え方のご意見、ありがとうございます。先生からのご意見をかなり取り込んで、整理されているかと思います。今一步、工夫していただけたらと思います。そのほか、いかがでしょうか。

(田村委員) 全体構想の第6章「実現に向けた取り組み」というのは、この制度を活用した取り組みという何か。制度の紹介のように見えてしまうので、この制度を活用してどうする、という一言がないと、制度の羅列になってしまうのが残念ですので、変えてください。

136 ページの「主要なプロジェクト」というのは、制度との関係が分からないですね。市民の方は、機動的に進めるプロジェクトとか、横断的に進めるプロジェクトとか、何かそういう文言があって、この説明があるとすごくよろしいのかなと思います。

PDCA サイクルマネジメントがここに入っているのですが、これはやはり138 ページにせっかく点検や改善と書かれているので、この中でPDCAが働くようにするんだという記述にした方が良いのではないのでしょうかというご提案です。

(樋口委員長) 場所の問題とか前後の関係がありますので、ぜひご検討いただけたらと思います。場所の問題は議論できていなかったと思います。そのほか、いかがでしょうか。

(佐藤委員) 私が第4章で見つけられなかったのかもしれませんが、確か5回目の委員会のときに、目標5-3というところに「誰もが安心して暮らしやすい環境をつくる」というところがあったんです。その方針としてバリアフリー化やユニバーサルデザインによる整備の推進というところの中に、これは本当にぜひお願いしたいと思っていたのが、ノンステップバスの導入やバス停におけるバリアレス縁石の整備というところがありました。これは、歩道や縁石なんかが整備されていくと歩きたくなるので、今、ちょうど、こちらの第4章の一覧の、最後の目標8-2と8-3を一緒にしたとしても、最後に、こちらのノンステップバスの導入やバス停におけるバリアレス縁石という、やはりそういった歩道や歩けるという環境も、この中にぜひ入れていただけたらいいのではないかと感じました。

(樋口委員長) 実際には第4章の、79 ページに目標5-3とあるのですが、これを、この場所ではなくてということでしょうか。

(佐藤委員) その場所でもいいですが、パッと見て見やすかったのも、そうすると、快適な住環境という中には、ただ住宅だけではなくて、みんなが安心して歩ける歩道が整備されていけばいいかなと思って。

(樋口委員長) 分かりました。全市レベルでやりつつも、地域レベルでもそういう概念が必要だということですね。ぜひご検討ください。

(上村氏) 空き家の観点ですが、第5章の区別構想の120ページ、南区の部分です。その他空き家率の推移という資料を付けていただいています。その他空き家率ということで表現されていますが、これは正しいと思います。一方で、108ページ、中央区の部分の空き家数・空き家率の推移という資料が付いていまして、中央区もその他空き家率という表現が正しいかと思しますので、直していただいた方がよろしいかと思えます。空き家率なのですが、中央区と南区の2区に記載があると思うのですが、これはこの2区が特にこの空き家に関しては深刻だということに記載されているのか、それとも区の優先順位の中で、西区も空き家はかなり多いようですけど、西区の優先順位の中で空き家という記載まではなかったという意味合いなのか。分かれば教えていただければと思います。

(事務局) 空き家の問題そのものについて、全市的な話ということに当然なのですが、区別構想は先ほどご説明したように区が主体となって作成したときに、限られたページの中で、関わった方々がどこに表現を置いて、選択をしているということになります。南区と中央区はその部分についてのご意見が出たり、それを載せた方がいいだろうということで、そうした。データは基本的に、区別、それぞれまったく同じデータを用意して、その他空き家率なんかも全部共有した上で議論しているということになります。

(樋口委員長) 一般の市民が読まれたときに、その他空き家率というのは分かりにくいですから、その下に「賃貸や別荘を除いた主としては戸建て専用住宅の空き家」とか補注を入れるといいかもしれませんね。

(事務局) 後ろに用語集を付けたり、最近だとわりと該当ページ下に直接付けたり、いろんな工夫はしていると思えますけど、そこは引き続きやって参ります。

(田村委員) しつこいですが、最後の区別構想のところを読ませていただいて気づいたのですが、先ほどの全体の方針の整理の部分で、例えば、区ができるのは、この地域づくりの下側だけではないでしょうけど、メインの担当で、上側は市全体の担当と分けられているという理解をしたらいいでしょうか。この中に書かれているのは、地域拠点と生活拠点としか、区別構想の中に書いていないので、そういう意味で、地域づくりの方針の、例えば田園

都市の田園みたいなことは方針1の上にも書いてあるのですが、それについては全然この区別構想の中に言及がないので、そういう分け方をしているのかなと、理解しています。一方で、国においても田園のことも、交通のことも、市と連携して実施したいという要望もあるのでは、と感じます。田園都市機能というのを上側にさせていただいて、中身は交通拠点、産業拠点、田園拠点、社会基盤としていただいて、地域機能の方を生活拠点と地域拠点にさせていただいて、市担当はあるにしろ、区とも連携しながら全体を進めるという理解でよろしいでしょうか。

(事務局) 当然、区別構想だけが別に独立しているということでは決してありませんので、そこは全体構想があって、というところと、区ごとにそれぞれの工夫があっていいだろうと思っていますけど、その中で整理をしていきたいと思っています。今の段階では、それしか申し上げられません。

(樋口委員長) どうもありがとうございます。でも非常によく、区域が分けられたかと思えます。ご確認いただけたらと思います。

私から1つですけど。第6章の132ページです。1つにまとまって非常に分かりやすい絵なのですが、違和感があるのが市街地周辺部というのを黄色くベタッと塗られているのですが、この部分は既成市街地という意味での黄色なのか、それとも、どういう意味合いなのか分かりにくいのです。もしかすると、ここは同じ緑色だが、性格が異なるという意味合いなのではないかと思ったのですが、いかがでしょうか。

(事務局) そういう意味ではおっしゃるとおりで、まだ、この黄色は、現状は緑です。

(樋口委員長) これだと、黄色いところは全部開発できそうに見えてしまってます。たぶん、ここは黄色ではなくて、市街化区域のピンク色と、黄色の際のところに入っていて、ここは緑なんだけど、調整しながらやっていくよという意味合いなのかなと思いました。黄色ではないのではないかというのが私の提案です。

(事務局) 緑である中で、どうなのかということで表記を変えてみます。

(樋口委員長) お願いします。それが、135ページに連動します。135ページに、青い四角が入ってくるのですが、そうではなくて、いい形が出てくると思うのです。建物っぽい形なのですが、そうではなくて、地区のような形もします。逆に、このピンク色は、もしかしたら見えていた方がいいような気がします。135ページも連動して修正していただけるといいように思います。

(鈴木委員) 今の132ページの図は、これまでの議論を踏まえると、もう少し湊町の雰囲気強調していただいて、水辺を強調していただいてもいいのかなと、まちづくり制度のところでは感じました。市民がワクワクするところでい

くと、136 ページの主要プロジェクトだと思うのですけれども、これはまだ 2 つしか出てきていませんが、都市づくりに関することだけでいいのか、地域づくりの方針というところもありますので。そこは区と分けているのか、市全体としても、地域づくりの方針のところでも主要なプロジェクトを立ち上げていくのか。そのあたりのところはいかがお考えでしょうか。

(事務局) 基本的には、全市的なというイメージは持っていますが、当然、それ自体が区だけではなくて、すごく広がりを持つような話だとか、逆に尖った話だとか、いろんなものがあると思いますので、どんなものが載せられるか全然整理がついていなくて、代表例の 2 つしか書いていません。そんなかたちを載せていきたいと思っています。

(鈴木委員) なかなか、われわれも整理ができていないのですが。例えば、中央区の区別構想ではにいがた 2 km という言葉が出てきていませんよね。新潟駅の話も触れていませんが、あえてすみ分けされているのか、どうなのかなというのを教えていただけますか。

(事務局) この部分について、にいがた 2 km という言葉自体がまだなじんでいないときの話でもあったりしますが。中央区の場合、にいがた 2 km みたいなのは、わりと全市的な、特化的なところでやっているものなので、それで書いてしまうと、ページ数に限りがあるなか、全部とってしまう感じがあるので、そこはあえて抜いていると思っています。

(樋口委員長) どの部分を、役割分担みたいな、先ほど定義というお話もありましたけど、前段の方でされておくといいのかもしれないね。

(鈴木委員) 本来は区づくりの方向性でも、全市レベルの方向と、にいがた 2 km であったり、鳥屋野潟のプロジェクトであったりというところとは、主要プロジェクトとも連携してというところはあってもいいのかなと思いました。

(田村委員) 第 2 章のところの 30 ページでインフラの今後は整備費用が難しいという話があって、その視点で話ができませんでしたねという意見もあった中で、いわゆる社会基盤の目標 5-1 あたりを見ていると、そのあたりが入っていないのかなと。目標 5-1 だけではないのでしょうか、基盤づくりのところ、その辺りの話が入ってこないのですけど。委員長のご判断だと思うのですが、どうにかしなければいけないのではないかとというのが最後の意見です。

(樋口委員長) 目標 5-3 のところで、若干、これに触れた方がいいということですね。

(田村委員) そうですね。

(樋口委員長) 私、ずっとコンパクトシティというのを研究している理由は、こういうの

をやるためには、市街地をコンパクトにしていかなければ難しいのではないかと考えておりますので、ぜひご記述いただければと思います。受け取る側のまちなか側も老朽化していて、それを直すのか、もう止めてしまうのかという判断も、本当はあっていいのですが。でも止めるとなると、全部が破壊してしまいますので。直しつつ、集めていくしか、方法がないのです。郊外にできあがった新しいインフラをどうするんだという議論も、またもう一つ別の視点があるのですが、また別のところで。

(樋口委員長) それでは最後ですので、皆様から一言ずつ何か事務局の皆さんにメッセージをいただいて、私、この進行の部分を終わりたいと思います。佐野先生からお願いします。

(佐野委員) 42 ページの拠点のイメージです。交通をやっている者から見ると、都心には新幹線で、都心から地域拠点は鉄道とか大きめのバスで、地域拠点から生活拠点へは小ぶりのバスで田園集落まではタクシーみたいな、非常に階層的にちゃんと書いていただいたと思いました。そのついでなのですが、私の感じからすると、都心が、これは、マンハッタンじゃないけど、少しビルが多過ぎる印象。萬代橋とかちゃんとあるのですが、もう少し水辺なり、環境を何か重視したものがいいかなと思いました。例えば、ホテルを川の向こう側にもっていけば、その手前が空くので、その辺を少し快適にするとか。あと百貨店はやめた方がいいかなと。細かく見ると、その上がレストランだけど、それなら日本海の魚とか何か、和食の方がいいかなと。どうでもいい話ですが、ついでに言いますと、コンテナターミナルのクレーンは建築用のクレーンで、コンテナのガントリークレーンとは違うので直した方が良いです。あと、船だったらジェットホイルくらいが適正かと。田園集落と生活拠点はもう少し近い方がいいのかなと思いました。

(樋口委員長) この絵はちゃんとつくった方がいいのではないかと、今回の都市マスの一番重要な部分かと思いましたので、ありがとうございます。

(田村委員) 都市計画のことを教えてもらいながら、ここまできました。防災の、どうしても普段見えないところを、物理的な都市計画の中にどう入れ込むかということと、ソフト対策とどう組み合わせたものをこの中に反映していくのかということについては、まだうまくバランスがとれていないなと思います。それは、防災だけではなくて、医療、保健、福祉分野などもそうなのかなと思います。今後とも部局横断で、いろんなことに取り組んでいく機会をいただければと思います。

(鈴木委員) 135 ページ、田園集落づくり、制度2で直売所や農家レストランがありますが、ぜひ、都市農村交流という視点でいくと、農泊、農村民泊についても、ぜひ推進していただきたいと思いました。

あと全体を通じてですけれども、陸前高田にワタミさんが進出したり、カゴメさんのように、魅力的な食のテーマパークができています。新潟だとアグリパークがもっと魅力的になってもらいたいなという意味も含めて、食を活かしたものが主要プロジェクトで出てくるといいかなと思っております。

それと全体を通じて、にぎわいづくりと、最初に申したモビリティが大事だと思います。にぎわいの場所を、都心、地域拠点、生活拠点、田園集落、それぞれ特性や規模感に合わせてつくっていくこと。それをつなぐモビリティが、これから重要だと思います。

(佐藤委員) 大変ありがとうございました。一言で都市計画といっても、本当に分野が広くて大変だなとつくづく感じています。都心づくりの方針と、地域づくりの方針というのは、明確にパキンと分かれるわけにいかず、どうしてもいろんなところでつながっていかねばいけないと感じています。先ほども申したように、住宅だけが安心安全なのではなくて、さっきも古町が歩く人が少なくなったと出ているのですが、私たちは連合会で全国のまちづくりの会に出ても必ず言われるのが「トイレが大事だね」と。本当にトイレが大事だというのは、にいがた2kmの道の間でも、トイレの計画をぜひ、その中に入れていただきたいと思います。やっぱり人間が快適に、安心安全に、防災の大きなところから、本当に小さな道、家の前を出て歩く歩道の安全性まで、そんなところを、時間をかけながらだと思いますが、また一緒に考えさせていただけたらありがたいです。ありがとうございました。

(柳沢委員) マスタープランというものは、できると、立派なものできて、床の間に飾っておくという、床の間の掛け軸のような役割で、それ自体も決して悪い役割ではないのですが、そうになってしまうのを避けるために、最後の第6章の後ろがあるわけです。しかし、PDCA といっても、実際、どこまで意味のあるPDCAができるか、なかなか怪しい感じがして。下手に真面目にやると、第4章にあった取り組み方針というのを、何か関係課にムチを入れて、マスタープランの番人になるような、そういうことになって。それ自体、やり方によっては、いいか分からないけど、フォローの仕方についてはどうも問題があると思うのです。今さらではあるのですが、もし可能であれば委員長とご相談していただいて、やっていただいたらと思うのは、最後に主要プロジェクトの紹介とあります。これは現にやっているものを「皆さん、な

じみがあるでしょう」と紹介してお見せする趣旨だと思います。そういう役割より、マスタープランを引っ張っていくようなリーディングプロジェクトをそこに書く、もちろん今やっているものを含めてもいいのですが、これからやるものを含めて、リーディングプロジェクトを、あるいは戦略プロジェクトをいくつか設定して、それをちゃんとどこが進まないならどこがネックなのだと、きちっとフォローしていく。そういうフォローの仕方が、番人型よりいいのではないかと、個人的に思っているので、可能であればご検討いただければと思います。

(樋口委員長) 床の間に飾っておかない都市マスというか、本当に、これから都市は激変すると思うので、いい役割を果たしてもらうためにも、柳沢先生のご提案は非常に重要ですので、ぜひご検討ください。

(上村氏) お疲れさまでした。先ほど、キャッチコピーのときに、湊がどうかと多く出ました。先日、樋口委員長と都市再生緊急整備地域の懇談会に出席させていただきました。その中で、5つの方針の中にも平仮名の「みなと」があり、私はそれが非常に印象強くて、新潟市を他都市と差別化するのはみなとなのかと感じました。キャッチコピーでみなとというご意見が出ましたので、賛同したいと思いました。都市再生緊急整備地域でも、新潟都心の目指す姿というものが発表されます。今回、この目指す姿は20年後で、都市再生緊急整備地域の目指す姿は遠い将来ということです。それを市民の方が混同されないような、うまい説明をしていただければと思っております。今ほど、柳沢先生がおっしゃったように、私ども県ではいろんなマスタープランをつくっていますが、やはり官、行政だけではできないものが多くあります。官民連携が強く求められる時代ですので、連携が深められるような、民間の参加が進められるようなマスタープラン作成にも、新潟県としても取り組んでいかなければいけないとあらためて感じました。ありがとうございました。

(樋口委員長) ぜひ、市と県で連携されて、この主要プロジェクトも進めていって魅力的な新潟市にしていいただければと思います。中間区切りということですので、委員の皆様から素案についてのご意見をいただきました。その他に移ります。事務局、ご説明をお願いします。

(4) その他

(事務局) 2点、事務連絡をさせていただきます。

【今後の委員会について】

今後は、本日いただいたご意見等を踏まえさらに精査を行った後、パブリックコメントなどの手続きを進め、最終の第7回委員会では「都市計画マスタープランの原案」についてご確認いただくことを予定。

一方で、新潟県が改定を進めている都市計画区域マスタープランの状況や、新潟市の最上位である総合計画の改定着手の進捗をにらみながら改定作業を進める必要もあり、現時点では、パブリックコメントおよび第7回の委員会開催時期は未定。

委員の方々とは、資料送付という形でパブコメ前の改定案をご確認いただく予定のほか、第7回の委員会開催まで期間が空くようであれば、必要に応じてメール等でやりとりをさせていただくことも考えているため、引き続きご協力をお願いしたい。

【写真の公募】

改定する都市マスを、市民へより分かりやすく、身近に感じていただくため、新しい都市計画マスタープランの冊子に掲載する写真を市民から公募する予定。募集する写真の内容については、都市マスの内容に即して新潟市の魅力が伝わるようなものを想定。

実施時期は、パブコメと同時期に行う予定しており、都市マスの内容に目を通してもらう、キッカケにもなると考えている。

4 閉会

【配布資料】

- 第6回 新潟市都市計画マスタープラン策定検討委員会 次第
- 第6回 新潟市都市計画マスタープラン策定検討委員会 出席者名簿
- 第6回 新潟市都市計画マスタープラン策定検討委員会 配席図

- 資料 1 都市計画基本方針 第1～6章【改定素案】
- 参考資料1 都市計画基本方針（全体構成）【素案】
- 参考資料2 第5回委員会を受けての主な更新箇所
- 参考資料3 目指す都市の姿(キャッチコピー)について